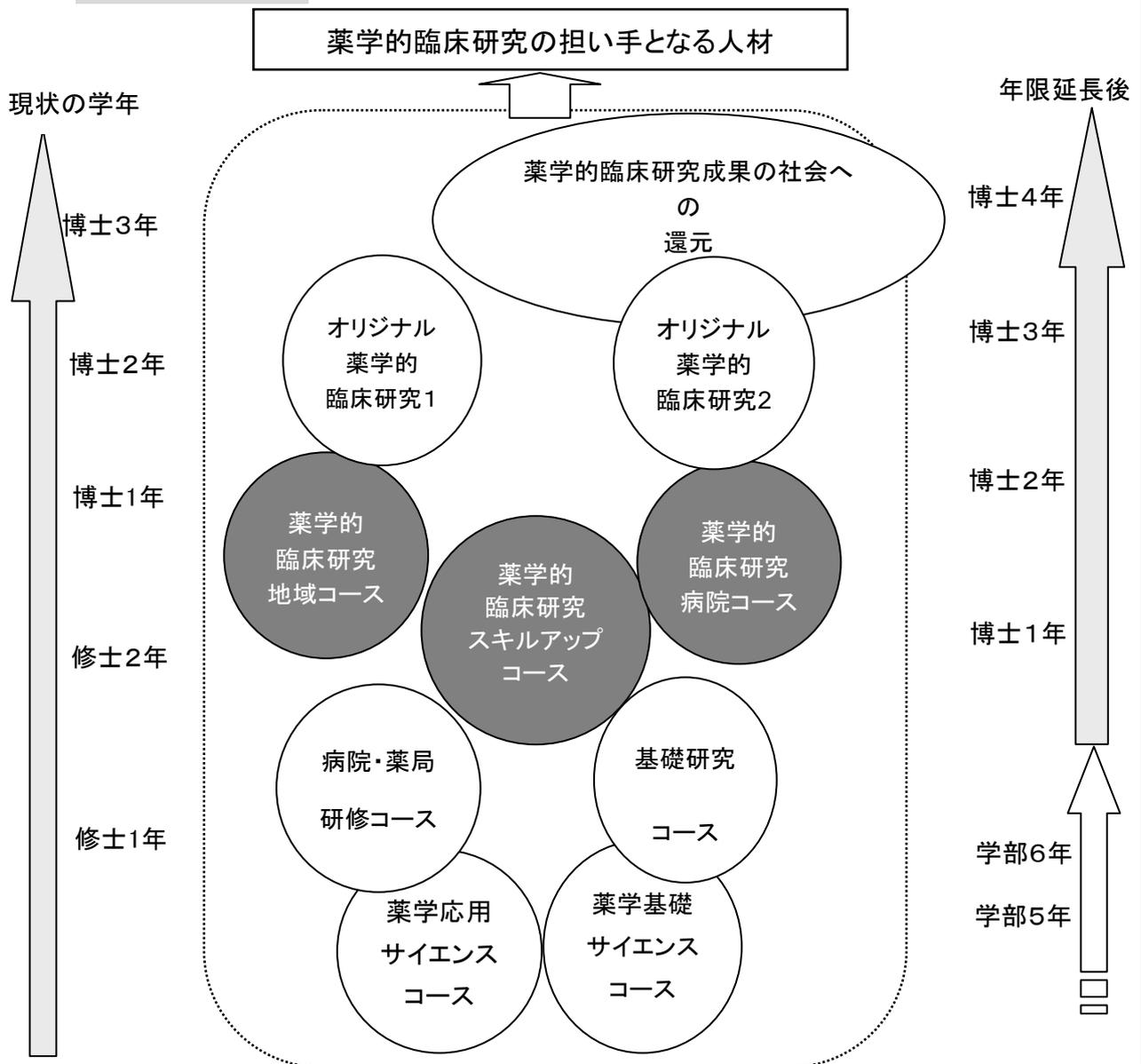


## 教育プログラムの概要及び採択理由

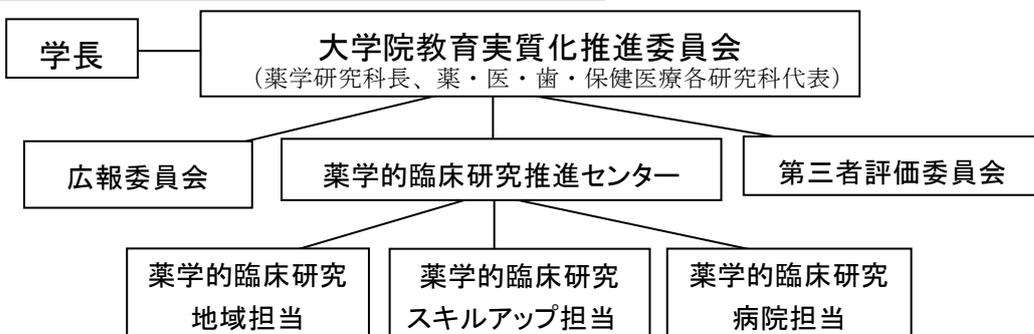
機 関 名	昭和大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	薬剤師の臨床研究能力養成プログラム (年限延長後の新薬学系大学院教育への展開)		
主たる研究科・専攻名	薬学研究科医療薬学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 山元 俊憲		
<p><b>[教育プログラムの概要]</b></p> <p>プログラム提案の背景： 高齢者社会をむかえた今、医療の充実が社会の根幹を左右する重要課題の一つである。平成18年4月より薬学部では学部教育を四年間から六年間に延長して内容を抜本的に改革した。この新しい六年制の薬学部教育には、従来の医療系薬学大学院博士前期課程での学習内容の一部が含まれており、これによって薬学部での医療人教育が一層充実して質の高い薬剤師が養成され、卒業後に医療社会で活躍することが期待されている。しかし、実際に卒業生を輩出するにはさらに数年を要する。このように薬学教育制度は大きく変動しており、未知数を多く含んでいる現状を十分に認識しつつ、本申請ではあえて「旧四年制薬学部と直結した医療系薬学系大学院のプログラムを新視点から構築する」ことを提案している。これは、これからの薬学領域での学部教育と大学院教育を現在の時点で明確に区別する必要があると強く認識しているからである。今回の提案内容は、ほぼそのままの内容で、平成24年に六年制薬学部の上につくられる新たな四年制薬学系大学院博士課程に移行できるものとなっており、今から教育プログラムの構築に着手しないと、充実した大学院教育体制での移行に間に合わないと感じている。</p> <p>プログラムの内容： 本教育プログラムでは、これからの薬学系大学院で薬学研究者に強く求められる能力は「薬学的臨床研究能力」と位置づけている。一般的に「臨床研究」というタームは、これまで医師あるいは歯科医師が臨床現場で遭遇する症例に関する研究の場合に使われてきた。薬剤師が医療人であること、現在の臨床現場で医薬品が大きな貢献をしていることは、「薬剤師の薬学的臨床研究」の重要性を強く示唆している。具体的には、薬剤師自らが臨床現場で経験した事例に基づいて、①薬物の適正使用に貢献する、②一般市民の健康維持増進に寄与する、③医療現場のニーズを敏感に吸い上げて創薬サイドに提供する、のそれぞれの観点でオリジナルな創意工夫がなされることを「薬学的臨床研究」と定義したい。</p> <p>本教育プログラムでは、現在の医療薬学専攻で博士前期1年次に行う臨床実務研修に加えて、「薬学的臨床研究展開に向けてのスキルアップコース」を必修とした。ここでは薬学的臨床研究の方法、すなわちデータの読み方と解析の仕方、プレゼンテーションを含めて、臨床研究マインドの基礎を養う。博士前期2年次から博士後期1年次にかけて「病院での薬剤師による薬学的臨床研究コース」、「地域での薬剤師による薬学的臨床研究コース」のいずれかを選択する。特に、病院コースでは、本学が医療系総合大学の特徴を最大限に活かし、全学的協力の下、学内共同研究における疫学研究、治験研究、ヒト疾患の先端研究に薬学研究科大学院生の参画を促す。すべての科目はPBL中心の参加型学習とする。博士後期1年次までのこれらの経験をもとに、博士後期2-3年次でさらに個別の研究テーマを掘り下げて、オリジナルな薬学的臨床研究を推進させる。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

<履修プロセス>



<教育プログラムを支える学内委員会等>



本研究プログラムでは、主に濃い灰色で示した3つのコースを新たに構築する。博士前期課程(医療薬学専攻)に「薬学的臨床研究能力養成プログラム」コースを必修で履修する。その後、博士前期2年から博士後期2年に掛けて「薬学的臨床研究病院コースまたは地域コース」の一方を履修する。オリジナル薬学的臨床研究には博士前期2年～博士後期3年まで取り組み、修士論文発表、そして学位論文の提出に結びつける。上記の学内委員会を設けてプログラムの実施を確実にこなす。

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、薬学部教育の6年制への移行期にあつて、本プログラムで提案する「薬剤師の薬学的臨床能力養成」を目指した博士課程（4年間）構想は、臨床薬剤師育成に特化した将来の新しい薬学系大学院モデルとして期待でき、社会のニーズに対応した臨床薬剤師養成目的を明確に掲げている点は評価できるが、それに沿った体系的な教育課程の編成については、基礎薬学領域の教員の養成や、薬学研究者の育成についても更に具体化することが必要である。

教育プログラムについては、「薬学的臨床研究能力」を持った臨床薬剤師育成を目指すプログラムとなっており、その人材養成目的を具体化するため、現行の大学院の改組を通して新規4年制大学院への移行を図る取組は、大学が既に実施している学部教育における薬剤師育成の実績からみても、その実現性、実効性が期待できる。

また、本教育プログラムの大学全体の中での位置付けも明確にされており、「大学院教育実質化推進委員会」を設置するなど全学的な支援体制が計画されていることから、今後の展開が大いに期待できる。

ただし、本教育プログラムにおける教育・指導の体制等をより明確にし、計画の実現に向けて努力することが望まれる。